

ボリショイ劇場芸術展

～ロシアの色彩・舞台芸術の世界～

開催期間：2022年 (6ヶ月)

開催場所：全国 3,4ヶ所 東京、名古屋、他

主催・事務局：東京新聞

プランナー/コーディネーター：山本萌生 Mavita Ltd.,

【展示開催にあたり日本における背景】

舞台芸術の世界は「知ることの楽しさ」を知るヒントが沢山用意されている。

日本には 4700 以上のバレエスクールがあり、推計約 36 万人（「日本のバレエ教育環境の実態分析」より）がバレエを習っている子供や大人がいる。そして年間 3 千以上の演劇・ミュージカル・バレエ・オペラなどの舞台の上演があり、ボリショイ劇場の来日公演では 1 枚 2 万円以上と高価なチケットにも拘らずほぼ完売。パリ・オペラ座バレエ団、ミラノ・スカラ座、ロイヤル・バレエ団など世界の名だたるバレエ団も 2、3 年に 1 度は必ず来日公演がある。それだけ日本ではバレエやオペラを観る楽しみを持っているファンが多いと言える。

【展示コンセプト】

しかし、舞台の歴史や衣装の仕組み、総合芸術としての側面などを習う・知る機会は非常に少ない。クラシック・バレエの技術だけではない世界観を、敢えてバレエ従事者にも知ってもらいたい。そしてロシアという国や、文学、演劇、音楽、デザインなどにも興味を持つ人々も巻き込み、ボリショイ劇場を形成する多面性を紹介することで、文化を、知ることの豊かさを体感してもらう展示。それが本展の狙いである。

【対象者】

バレエを習っている子供から、観劇が好きな方、ロシア文化に興味のある方など。

【展示内容】

1780 年の創設以来今日に至るまでボリショイ劇場では様々なダンサーを輩出してきた。有名なダンサーや歌手たちは劇場を代表する顔ではあるが、華やかな舞台を作り裏で支える裏方たちの職人技なしでは彼らの栄光は語れない。

音楽家・振付家・演出家・デザイナーや指揮者等各分野で、現代のボリショイ劇場栄光の基礎を築いてきた芸術家は数多く、その中でも特筆すべき分野、音楽・美術・ダンサーに焦点を当て、彼らの世界観とボリショイの伝統への絡みを掘り下げる。

舞台を造る匠の技にフォーカスし、240 年の歴史を誇るボリショイ劇場の伝統に触れながら、舞台メイクの世界や、オペラやバレエ衣装の装飾技術を間近で見学可能にし、トウシューズや衣装に触ることが出来る**体験型の新しい舞台芸術の展示**を行う。舞台衣装がいかに軽量か、煌びやかな装飾の意味、照明は衣装を“本物らしく見せる”技術を要しているなど、そういった舞台芸術の仕組みを体感できる展示会を目指す。